

投資事業評価調書(継続:再評価)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (主幹兼国道係長 北村 昭二)	内 線	4362 (4374)
事業種目	道路事業	事業名	事業区間	総事業費	47億円
		国道372号道路改築事業 丹南バイパス	篠山市栗栖野～ 不来坂	内用地補償費	13億円
所在地		事業採択年度	着工 年度	完成予定 年度	進捗率 (内用補進捗率)
篠山市栗栖野～不来坂		H8	H8	H21	約62% (約72%)
事業の目的			事業内容		
<p>・国道372号は播磨地域と丹波地域を結ぶ幹線道路であり、阪神淡路大震災時には臨海部幹線道路の代替ルートとして機能した。</p> <p>・しかし、当該区間は幅員狭小で歩道未整備区間もあるなど、交通の隘路となっている。</p> <p>そのため、バイパス整備及び現道拡幅により、緊急輸送路ネットワークの形成、未改良区間の整備、自転車歩行者の安全性向上等を図り、地域活性化、産業基盤の安定に寄与する。</p>			<p>道路改築事業 L = 3,200m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波賀野工区 : L = 1,800m ・不来坂工区 : L = 1,400m <p>【計画幅員】6.5(12.0)m(2車線+片側歩道) 【現況幅員】4.0(5.0)m(1車線+歩道無し) 【計画交通量】8,800台/日(H42年度推計) 【現況交通量】6,542台/日(H11交通センサス) 【負担割合】国:5.5/10 県:4.5/10</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>・平成14年6月に発生した大規模法面崩壊の対策工及び不来坂峠の工法変更等による事業費の増額(約20.0億円増)</p> <p>・大規模法面崩壊の対策に約3年かかり、その影響で完成予定を2年延伸する。</p>				
進捗状況	<p>・H8年度から波賀野工区に着手し、H12年12月に約0.3km、H17年6月に約0.2kmを供用、H18年度末に約0.3kmを供用予定(現道拡幅部概成)</p> <p>・H16年度から不来坂工区に着手、H17年度から用地買収着手</p>				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の確保	<p>・国道372号は、阪神淡路大震災の時に機能が麻痺した臨海部幹線道路の代替路線として見直されるとともに、緊急輸送路に位置づけられており、防災面での必要性が高い。</p> <p>・当該区間は、通学に利用されるなど、地域住民の重要な生活道路でありながら大型車混入率が23.7%と非常に大きく、幅員狭小で極めて危険な状況となっていることから、バイパス及び現道拡幅を行い、大型車等の通過交通排除及び離合困難の解消を図ることで、地域の安全と安心を確保する。</p> <p>・歩道を整備することにより、歩行者や自転車の安全が確保できる。</p> <p>・当該区間の整備により、舞鶴若狭自動車道等の高規格幹線道路と一体となって広域的な交通ネットワークを形成する国道372号の機能強化が図られ、地域間交流を促進し、観光や産業の発展に寄与する。</p>				
地域の活性化	<p>・波賀野工区においては、平成18年度末までに用地買収を完了させる予定であり、また、不来坂工区についても、地元から早期完成の要望が出されるなど、事業に対する地元合意が得られている。</p> <p>・費用便益比 B/C = 2.1</p>				
(2)有効性・効率性	<p>・大型車等の通過交通を排除することにより、沿道の生活環境が改善される。</p> <p>・植樹帯を設けて緑化に努めるとともに、歩道部に透水性舗装を施工して、環境への影響を最小限とする。</p>				
(3)環境適合性	<p>・当事業の実施により、未改良区間が解消され、緊急輸送路ネットワークの整備が進むとともに、通学等の安全安心が確保されることから早期完成が望まれる。</p>				
(4)優先性	<p>・事業の必要性は事業採択当時と何ら変わっておらず、地域住民からも早期完成を望む声強いことから、継続して事業を実施する必要がある。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由			